

2011 年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011 年 4 月 30 日提出

1. 研究プロジェクト名		「日本版画・版本」研究プロジェクト
2. 研究プロジェクト代表者		赤間亮
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間		2011年 4月 ~ 2012年 3月
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	赤間亮 John Carpenter	立命館大学大学院文学研究科・教授 ロンドン大学SOAS・教授、立命館大学衣笠研究機構・特別招聘教授
特別招聘教員		
研究員	倉橋正恵	衣笠総合研究機構
客員研究員	松葉涼子 岡本隆明	日本学術振興会・特別研究員PD(南山大学) 京都府立総合資料館・学芸員
PD	石上阿希 金子貴昭	衣笠総合研究機構・PD 衣笠総合研究機構・PD
RA	斎藤ちせ 加茂瑞穂 二俣希	立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D1
学内研究協力者		
その他	永井一彰	奈良大学文学部国文学科・教授

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

1. 板木デジタル・アーカイブの構築と近世出版研究への活用（金子）

当該研究については、過年度までに「板木閲覧システム」を通じて板木デジタル・アーカイブの公開および古典籍デジタルアーカイブとの連携も果たし、これを基盤とする研究成果を発表しており、板木資料の重要性、および板木デジタル・アーカイブが出版研究の強力な基盤となることを明らかにしつつある。2011年度は、既存デジタル・アーカイブに、他機関所蔵板木資料の情報・出版記録から得られる情報・板元の情報等を付加しながら拡充に努め、板木資料をより広く深く理解できる近世出版総合デジタル・アーカイブへと発展させる。このうち板元については客員研究員松葉と共同で行う。また2008年度開催「近世板木展」の続編となる展覧会を開催し、研究成果の公開を促進する。

2. 研究者向け浮世絵版画・近世版本のDBの開発

引続き、資料の内容を分析するにふさわしいDBを開発し、研究的視点を強めた専門DBとして成長させる。

3. 在外所蔵浮世絵・版本資料のデジタル・アーカイブ

本プロジェクトでは、主に在外美術館の所蔵する版本・版画の情報を収集し、共有化することを目的にデジタル・アーカイブを進めている。本年度もこれまでのプロジェクト活動に引き続き、在外美術館の所蔵する版本・版画の調査及び撮影を進め、データベースの拡充を図る。

本年度は昨年から継続しているイギリス・ベルギー・イタリア・チェコ・アメリカの各機関を中心に所蔵される作品を網羅的に調査する。インターナショナル・トレーニング・プログラム及び、大航海プログラムでの大英博物館・ベルギー王立美術歴史博物館・ベルギー王立図書館、キヨッソーネ美術館、ヴェネツィア東洋美術館、マレガ文庫、チェコ国立美術館、フリア美術館などの資料調査を予定している。

4. 近世期の春本・春画研究（春画プロジェクト）

春画プロジェクトは、ロンドン大学SOAS、大英博物館、国際日本文化研究センターとの共同研究としてスタートしており、石上が大英博物館に出向してプロジェクトをサポートする。本年度は、国内外の春本・春画の所在調査、黄表紙春本の公刊に向けた作業を進める。

引続き、近世期春画・艶本研究の基礎ツールとして資料所在・書誌目録のデータベースを増補、公開する。さらに、春画データベースの構築を進める。

具体的には、所在調査（主に個人コレクター所蔵の資料調査）、第5回春画シンポジウム（5月20、21日ロンドン大学SOAS、「Shunga - erotic art in a comparative context」）、学会発表（2011年8月24～27日、エストニア、タリン大学第13回EAJS国際会議において春画プロジェクトメンバーとパネル発表）、第6回春画シンポジウム（冬期に開催予定）などを予定している。

また、本プロジェクトでは、2010年4月より「近世艶本総合データベース」の公開をスタートした。このDBでは、国内外の所在調査を基に約2100点の艶本情報を検索でき、随時情報を拡充していく。本年度も、引続き近世期春画・艶本研究の基礎ツールとして「近世艶本総合データベース」を増補、公開する。さらに、春画データベースの構築を進める。

5. ARC所蔵品の中から、近世期の京都の美人画に関する資料展を実施する。

京都の美人画は、近代になってから注目されることが多いが、近世期には合羽摺や掛物絵として多数の絵師が名品を残している。アトリサーチセンター所蔵品にもこれらがあり、とくに合羽摺美人画は、他に類を見ない。この位置づけを再考する展覧会を実施する。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
4月	シャガンコレクション、浦上コレクション撮影・調査(50,000円/石上・松葉/春画プロジェクト費)	東京
5-8月	フリア美術館プルベラ-コレクション調査・撮影(R-GIRO)	ワシントン
7月	マレガ文庫、デジタルワークショップ	イタリア
7月	SISJAC共同ギリシャコルフ島 東洋美術館 予備調査(共通経費40万)	ギリシャ
8月	ティニオスコレクション調査・撮影	イギリス
8月	EAJS参加	エストニア
9月	キオッソーネ東洋美術館所蔵版本のデジタル撮影・調査	イタリア
9月	ヴェネチア東洋美術館撮影・調査	
9月	チェコ国立博物館 撮影・調査	チェコ
9月	ナールプスティク博物館 撮影・調査	
9月	大英博物館 撮影・調査	イギリス
10月	ベルギー王立歴史博物館 撮影・調査	ベルギー
	キオッソーネ東洋美術館 撮影・調査	
2月	大英博物館 撮影・調査	イタリア
3月	ギリシャコルフ島 東洋美術館 撮影・調査	イギリス
3月	(以上R-GIRO・科研・ITP・大航海等)	ギリシャ
4-9月	奈良大学所蔵板木の原物調査	奈良大学
6月	株式会社芸艸堂撮影打ち合わせ	株式会社芸艸堂
6月	株式会社法蔵館撮影打ち合わせ	株式会社法蔵館
6-9月	出版記録のデータベース化と板木閲覧システムの連携	立命館ARC
8-9月	株式会社芸艸堂の板木デジタル化(共通経費20万)	株式会社芸艸堂
8-9月	株式会社法蔵館の板木デジタル化(共通経費20万)	株式会社法蔵館
9月	板元データベース構築とその他データベース連携	立命館ARC
10-11月	夏期撮影分の画像処理およびメタデータ構築と公開(共通経費10万)	立命館ARC
10-3月	奈良大学追加収蔵板木のデジタル化	奈良大学
1月	展覧会「続近世板木展」開催(共通経費30万)	立命館ARC
1月	展覧会関連研究集会「(仮)板木の記憶」開催(共通経費20万)	立命館ARC
2-3月	株式会社芸艸堂の板木デジタル化および画像処理(共通経費20万)	株式会社芸艸堂
2-3月	株式会社法蔵館の板木デジタル化および画像処理(共通経費20万)	株式会社法蔵館
2-3月	春季撮影分の画像処理およびメタデータ構築と公開(共通経費5万)	立命館ARC
4-3月	板木対応板本の収集・デジタル化	立命館ARC
4-3月	ARC書籍DB、ARC浮世絵DBの増補・修正(共通経費500万)	
5月	第5回春画シンポジウム「Shunga - erotic art in a comparative context」	ロンドン大学SOAS
12月	第6回春画シンポジウム	ロンドン大学SOAS
1月	近世京都の美人画展(共通経費30万)	立命館ARC